

令和4年5月12日

《続報！！》バガスチャレンジ！ ～第1弾～

『学び、実践しようSDGs！春休み自然体感キャンプ(3月28日(月)～29日(火))』で、埋めたバガス容器はあれからどうなったの？

3月28日(月)～29日(火)に愛知県青年の家にて開催しましたキャンプにて、野外炊飯の際に使用した『バガス容器』を土に埋め、生分解性実験を行いました。5月7日(土)の『家族で学び、実践しようSDGs！春の自然体感キャンプ』にて経過観察を行いました。

3月末に行った生分解性実験では、3つのケースを用意し、それぞれ異なる場所で採取した土を入れました。

Aのケース：さらさらした土を入れました。

Bのケース：さらさらした土と粘土質の土の両方を混ぜて入れました。

Cのケース：粘土質の土を入れました。

さて、今回のSDGsキャンプでバガス容器の提供をいただいた株式会社折兼の実験では、“76日で土に還る”という結果が出ているが、本当に土に還るのか？また、採取した土によって果たして違いはあるのだろうか？

※なお今回の実験は、岡崎市環境部の指導のもと、直接土壌に埋めるのではなく、ケースの中で行っております。



(バガス容器)



(土採取の様子)



《みんなの予想》

Cのケース(粘土質の土)内のバガス容器が、一番分解が早いと思う。

3月29日(火)に参加してくれたお友だちの予想は、このようになりました。

(Cのケース>Bのケース>Aのケース) ほとんどの子がCのケース(粘土質の土)に期待しているようでした。

・・・果たして5月7日(土)(39日経過)の状況はどうなっていたのか？

<次のページに進む>



A



B



C

39日後の様子(5月7日(土):中間観察)

《中間観察》

頑丈なバガス容器が、薄く、柔らかくなっており、微生物や幼虫などの力により分解が進んでいました。また、Aのケースの分解が他のケースより分解が進んでいたように感じられました。3月に引き続き参加した子からは、『カブトムシとかが好みそうな大きな木の下で採取したさらさらの土だったから、幼虫や微生物も多くいたのかも』そんなことも聞かれました。

果たして、次回の観察では、バガス容器にどのような変化があるのでしょうか？

《次回の観察予定》

6月11日(土)～12日(日)

『家族で学び、体験しよう！SDGs自然体験キャンプ』(会場：愛知県青年の家)

募集受付期間 ～5月22日(日)まで

詳細は財団HPまたは、QRコードからご確認ください。



公益財団法人 **愛知県教育・スポーツ振興財団**

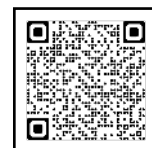
Aichi Education & Sports Promotion Foundation

企画推進課 SDGs キャンプ係

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

電話番号：052-241-9101

ホームページ <https://www.aichi-kyo-spo.com/>



令和4年6月16日

《続報！！》バガスチャレンジ！～第2弾～

『学び、実践しようSDGs！春休み自然体感キャンプ(3月28日(月)～29日(火))』で、埋めたバガス容器はあれからどうなったの？

5月7日(土)『家族で学び、実践しようSDGs！春の自然体感キャンプ』から37日後の6月12日(日)に行いました『家族で学び、体験しよう！SDGs自然体験キャンプ』にて、バガスチャレンジ！(バガス容器の生分解性実験)の観察を行いました。

《前回のおさらい》

前回の中間観察では、バガス容器の形こそ残っているものの、薄く、柔らかくなり、所々穴が空いており、着実に分解が進んでいることが、観察できました。



39日後の様子(5月7日(土)：中間観察)

さて、3月29日(日)に土に埋めてから75日が経ちました。今回の観察では、どのような変化が見られたのでしょうか？



土に埋めてから、75日が経過したバガス容器の様子

《次のページへ進む》

《見比べてみましょう》

<p>3月29日(日) 埋める前のバガス容器</p> 	<p>5月7日(土)~39日後~ 中間観察時のバガス容器 (※写真はAのケース)</p> 	<p>6月12日(日)~75日後~ 最終観察時のバガス容器 (※写真はAのケース)</p> 
--	---	---

A・B・Cのケース内に埋めたバガス容器は、気候や分解条件の関係で75日間では、全て完全分解することはできませんでした。

しかしながら、Cのケース(粘土質の土)では、他の2つのケースよりも早く分解が進み、ほとんど分解が完了していました。Aのケース(さらさらした土)とBのケース(粘土質の土+さらさらした土)内に埋めたバガス容器も前回に比べ、さらに分解が進み、手で触ると崩れてしまうものばかりで、頑丈だったバガス容器が、微生物などの力により分解していることが見て分かりました。

分解の差について、少し考えてみるとそれぞれのケース内の土に微生物の数は分かりませんが、土に含まれる水分量も分解の速度に影響を及ぼしているのではないかと感じました。

75日間で行った今回のバガス容器の生分解性実験では、粘土質で保水力のある土(Cのケース)に入れたバガス容器は、ほとんど分解することができた。しかしながら、AのケースとBのケースについては、触ると崩れてしまうけれど形状が残っていたので、この2つのケースについては、延長して経過観察していくことにしました。



公益財団法人 **愛知県教育・スポーツ振興財団**

Aichi Education & Sports Promotion Foundation

企画推進課 SDGs キャンプ係

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

電話番号：052-241-9101

ホームページ <https://www.aichi-kyo-spo.com/>



令和4年7月20日

《続報！！》バガスチャレンジ！～第3弾～

75日経過して、ポリバケツ内では完全分解できなかったバガス容器は、あれから約1か月でどんな変化があったのだろうか？

7月13日に観察してきましたので、ご覧ください。

		<p>【Aのケース】</p> <p>前回の観察では、形状が残ったものが、割とあった印象でした。今回は、バガスで作られたスプーンの細かな破片がちらほら見受けられたが、前回よりも細かくなっており、量に関しては、分解が進み、土に還元され、形状が分かるものが、減ったように感じました。</p>
		<p>【Bのケース】</p> <p>前回のCのケース同様に、ほとんど分解が進んでおり、どこにバガス容器があるのか一目見ただけではわからないくらいまでになりました。さらによく見ると以前に比べ、土に含まれている繊維のようなものが増えたようにも感じました。</p>

(※前回の観察後、それぞれのケースに1リットルの水を入れて保管しました。なので、前回よりも土が湿っています。)

春から実験を開始し、約3ヶ月半の月日が経過し、気候も徐々に温かくなってきてことで、より微生物の働きが活発になってきたのでしょうか、徐々に形状もなくなりつつあり、ポリバケツ内の密閉空間で行ってきた今回のバガスチャレンジも分解完了へ向けていよいよ終盤戦へ突入した模様です。

次回「バガスチャレンジ！～いよいよ最終回！？～」(※次回の観察は、8月頃を予定しています。)



公益財団法人 **愛知県教育・スポーツ振興財団**

Aichi Education & Sports Promotion Foundation

企画推進課 SDGs キャンプ係

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

電話番号：052-241-9101

ホームページ <https://www.aichi-kyo-spo.com/>

